

復興・共生、五輪の旗印

「チーム萬齋」演出に期待の声

「被災地訪れるきっかけに」

東京五輪・パラリンピックの開会式・閉会式の演出企画メンバー (敬称略)



東京五輪・パラリンピックの象徴となる開会式・閉会式の演出は、狂言師の野村萬齋さんから日本を代表する8人のエンターテイナーに託された。「平和」「共生」「復興」などのコンセプトの下、2年後にどんな式典が披露されるのか。「世界の人々が被災地に足を運ぶきっかけに」「パラスポーツにも関心を」。早速、関係者からは期待の声が上がった。(一面参照)

8人は2017年12月ごろのことになった。総監督から式典コンセプト検討は置かずチーム制でメンバー。大会組織委員 討する。組織委の御手洗会は8人の検討内容を評 富士夫名誉会長は記者会見し、横滑りで演出を担 見て「具体的な演出の検討

討にそれぞれが秀でた力を持った人ばかり」と期待を込めた。

4つの式典を総合統括するのは狂言師の野村萬齋さん。人間国宝の祖父・故六世野村万蔵と父・

オリ・パラそれぞれの開閉会式という4つの式典は起承転結の一連の4部作として構成するとき、

「平和」「復興」「共生」など8つの基本コンセプトが掲げられた。

パラ正式種目「ボッチャ」の普及を進める日本の

「パラスポーツに関心を」

「五輪旗」が引き継がれる場面で、「マリオリオ」にふんじた安倍晋三首相を登場させ、コンピュータグラフィックス(CG)を駆使したショーで人々の心をつかんだ。

ボッチャ協会強化指導部長の村上光輝さん(43)は「コンセプトに共生が入ったのはうれしい。開会式で終わらずに、それをきっかけにパラスポーツへの興味、関心が広がってほしい」と望む。

「震災の時は世界中から応援をもらった。我々からも感謝を伝える機会にしたい」。南三陸ホテル観洋(宮城県南三陸町)女将の阿部憲子さん(56)は「復興」のテーマを歓迎する。「海外から来た人に聞かれたときに自分の言葉で答えられるよう、大会までに被災地に足を運んで現状を見てほしい」と訴えた。

聖火到着は宮城 2020年東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長は30日、福島県で開かれた福島、宮城、岩手3県との意見交換会で、ギリシャで採火した聖火の到着地を宮城県東松島市の航空自衛隊松島基地とする方針を明らかにした。

到着した聖火はまず、東日本大震災の被災3県で「復興の火」として巡回展示される。聖火リレーは20年3月26日に福島県からスタートし、五輪開幕の7月24日まで121日間で全47都道府県を巡る。

発揮してきた。

音楽家の椎名林檎さんや人気女性グループ「Perfume」の振り付けを担当するMIKIKO Oさんらは、2016年リオデジャネイロ五輪の開会式でも企画演出を担当。

「五輪旗」が引き継がれる場面で、「マリオリオ」にふんじた安倍晋三首相を登場させ、コンピュータグラフィックス(CG)を駆使したショーで人々の心をつかんだ。

聖火到着は宮城 2020年東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長は30日、福島県で開かれた福島、宮城、岩手3県との意見交換会で、ギリシャで採火した聖火の到着地を宮城県東松島市の航空自衛隊松島基地とする方針を明らかにした。

2018年7月31日(火)
【日本経済新聞】